

政策提案特別委員会記録

令和 6 年 9 月 2 5 日

【開催日】 令和6年9月25日（水）

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時10分～午後1時57分

【出席委員】

委員長	大井 淳一朗	副委員長	中岡 英二
委員	伊場 勇	委員	笹木 慶之
委員	山田 伸幸	委員	吉永 美子

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

局長	石田 隆	局次長	中村 潤之介
----	------	-----	--------

【審査内容】

- 1 政策提言（案）について
- 2 その他

午後1時10分 開会

大井淳一朗委員長 それでは、ただいまより政策提案特別委員会を始めます。

お手元にあります付議事項に従って進めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いします。まず、付議事項1点目、政策提言案についてです。お手元のタブレットにあります議会政策提言書を御覧ください。これは前回の政策提言骨子案に基づいて、皆さんと協議しまして、そこでの意見を議会政策提言書案として示してあります。1ページ目は一般的な「表紙」です。次のページです。第1章「はじめに」、第2章「本市の現状」を書いております。「はじめに」ということで、一般的な説

明を書いてあります。本市の現状としまして（１）人口の推移、（２）社会増減及び自然増減の推移、（３）年齢階級別純移動の時系列推移を、それぞれグラフを貼った上で簡単に説明してあります。続きまして、次からがメインですが、第３章「政策提言」として３本の柱、「公共交通の充実」、「次世代の育成支援」、そして「山口東京理科大学との連携」について書いてあります。公共交通の充実としまして、「提言の背景」と「提言内容」を書いてあります。「提言の背景」としまして、ここに書いてあるようにバスや乗り合いタクシーの運行を増やすとか、運行時刻を改善するとかの要望がある一方で、担い手不足があるんだということ、特に運転免許証を返納した後、どのようにすればいいかという不安視する声もあると。したがって、運行の担い手を確保する、あるいは新たな担い手を創出して、既存の公共交通を補完する施策が望まれるということです。それから、厚狭駅の１日当たりの利用者数２，６４２人は、恐らく在来線も含んでいる数字です。新幹線は「こだま号」が停車しているという現状等を書いてあって、利便性を上げて交流・定住人口を増やすことが望まれるといったことが書いてあります。提言内容といたしまして（１）担い手の確保、（２）新幹線さくら停車の要望ということで、２本の柱というか提言しております。担い手の確保としましては、運転士就職奨励金、公共交通担い手確保事業費補助金といった、他市の事例を意識して書いてあります。それから、公共ライドシェアも書いてあります。これは、新たな担い手の創出、そして既存の公共交通を補完する役割があるんだということが書いてあります。新幹線さくらの停車の要望についてが（２）でありまして、観光客の動向数から、観光客が増えていることが書いてあって、交流人口をさらに増やしていくための手段として、さくらの厚狭駅停車があるだろうと。さくらが停車すればこのような効果があるということと、厚狭地区に医療保健学部が設置されれば、通学も含めてさらに多くの学生が集まると。ですので、これらを千載一遇の機会として、三位一体でさくら停車の要望活動をすべきだということが書いてあります。次世代の育成支援は、提言の背景が書いてありまして提言内容としまして、奨学金返還支援制度と次世代育成支援基金の

創設についてが書いてあります。効果等については、そこに書かれてあるとおりです。それから、次世代育成支援の中で、前回の委員会の中では校種間連携の強化という項目を挙げておりましたが、後々中継とか皆さんの意見等とかを聞いてみますと、この校種間連携の強化については、それぞれの地区に応じて既に連携が図られているということ、それから、高校生や大学生と小学生や保育園児との連携のイメージが地区によってはなかなかつきにくいだろうといったこともありまして、校種間連携については外してあります。それから、山口東京理科大学との連携は、提言の背景として、理科大生は、卒業しても地域に就職している人数が少ない、パーセンテージが少ないということ等が書いてあります。提言内容としまして、第2のふるさとづくりの推進と厚狭地区まちづくり構想の策定ということが書いてあります。中身については、これまで議論してきたものを反映しております。最後「おわりに」なんですが、これはまだ書いていない状況です。また書いていきたいと思います。一応、これがざっとした説明ですが、これを踏まえて皆さんの御意見等をお伺いしたいと思います。まず、「はじめに」と「本市の現状」から行きましょう。皆さんから、何か御意見があればと思います。おおむねこれでしょうか。

笹木慶之委員 政策提言の最初の出だしに「山陽小野田市に住みたい・住み続けたいまちにするために」と書いてあるんだけど、インパクトを出すために、「住みたい・住み続けたいまちを目指し」としてはどうだろうかと思います。

大井淳一郎委員長 「住みたい・住み続けたいまちを目指し」ってことですね。これはタイトルなので、皆さんの御意見がまとまれば全然いいです。それも一つの意見として皆さんで考えてください。伊場委員、全体で何か意見があればどうぞ。

伊場勇委員 その表紙のインパクトが大事だということはよく分かります。全

体を通して見たときの始めの表紙の文言については、また判断したいなと思います。今はこれがいいとは決められません。

大井淳一郎委員長 承知しました。それでは続きまして、「はじめに」と「本市の現状」ですね。

山田伸幸委員 ピークはあるんですけど、その後、現在どうなったのか、その辺ももう少し書き……ページ数を余り増やさないということであれば、これでもいいんですけど、余裕があるのならば、現状と今後予想される人数を踏まえて、このままでいけないというのが必要ではないかなと思います。

大井淳一郎委員長 ありがとうございます。できる限り、そのように直していきたいと思います。

伊場勇委員 人口の推移については、もちろん減ってはいつているんですけども、何もしなくて減るグラフと、施策を展開して何とか持ちこたえようという数字については、何もしなくても減るグラフよりかは、何とかその最悪の状況まで行っていないし、理想に沿ったような減り方をするというか……それについては、今の施策が効果的に反映している部分もあるのかなと思うので、そういうところも入れたらどうかなと思います。

大井淳一郎委員長 はい、ありがとうございます。皆さん、人口減少の問題を取り扱ったときに、人口ビジョンがありましたね。伊場委員が言われた、国立社会保障・人口問題研究所が出した「何もしないとこうなりますよ」というグラフがあります。それに対して、県や市の目標値みたいのがあったと思います。私も100%正確なことは言えないんですが、現状は国立社会保障・人口問題研究所の数字よりもいいと思います。これも、本市が取り組んで——理科大の影響もあるかもしれませんが、国立社会保障・人口問題研究所よりはいいということもあります。実は最後にち

よつと書こうかと思っていたところでもあるんです。ただ、伊場委員の言われるように、このグラフを差し替えることも踏まえて、国立社会保障・人口問題研究所の数字と現在のうちの数字といったものを、どれぐらいで推移しているかを書いたほうがいいかもしれないですね。ちょっとそこも踏まえて考えていきたいと思います。

山田伸幸委員 次のページの社会増減及び自然増減のところで、本市の特徴として、社会増減が非常に効果——何の取組か分からないし、理科大の効果だろうとは思われるんだけど、ここが若干持ちこたえているというのか、ただ、問題は自然増減であって、亡くなっても出生数が少ないという中で、この現状だと。そこにきちんと光を当てて、子育て世代から選ばれるというような方向も必要じゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 そうですね、山田委員の言われるとおりなんですが、ここを意識しているのが現状なので、どうしたらいいかというのはあまり入っていない感じなんですよね。ですので、確かに山田議員が言われるのはごもっともなんですが、この辺りは現状を書いたと踏まえていただければと思います。

伊場勇委員 2015年ぐらいに、社会増134……

大井淳一郎委員長 そうですね。1年だけですね。実は最近ではですね。これだけ社会増が増えています。

伊場勇委員 要因って何だったんですか。

大井淳一郎委員長 恐らく大学の——2015というと、平成27年に薬学部ができたぐらい（発言する者あり）薬学部の前か。公立化は20……ということは2016年ぐらいが（「何かあったんよ」と呼ぶ者あり）ごめんなさい、僕も前に聞いたことあるんですよ、ここだけ増えたのは。

すみません、僕も前に聞いたんですが、失念しているところがあつて。

（発言する者あり）このあたりはいいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）では、提言に入っていきます。まずは公共交通の充実です。こちらはいかがでしょう。提言の背景は大体いいですね。提言内容は担い手確保に絞りましょう。まずは前段です。奨励金です。山口市といわき市を代表として挙げました。岩国市は、就職奨励金がもう一個あるんですが、12万円かける3年分までという感じ、山口市は1回限りです。そこまで正確に書くスペースがなかったのです。

山田伸幸委員 これをやるときに非常に取り立てていきたい思いとして、移住者を獲得して、そういった人がこういう仕事に就いてくれると。そうしたときに、移住支援、定住支援、就職支援と複合して山陽小野田市に来ていただけるというふうな形が取られるといいなと思います。

伊場勇委員 例えば本市がやっている公共交通の施策の展開はいろいろあると思うんですけども、現実には担い手不足となると、実際に民間で雇われている船鉄とか第一交通とか、いろいろ施策に対して関連で動いていただいているところに話を聞いてもいいのかなと思うんですよ。結局、我々はこれに行き着いたけれど、実際にそれを本当に欲しているのかどうか。全てを聞くのは難しいので、数社だけでも意見交換をさせていただいたり、我々が協議会を開いて参考人として来ていただいたりして、エビデンスを得るのも必要じゃないかなと思います。

山田伸幸委員 以前、デマンド交通をやりたいくてもできない状況の中で、タクシー会社は人員不足とはっきり言われていたんです。それが山陽側なのか小野田側なのかがよく分かりませんが、その辺は調べて、場合によっては、業者とのディスカッションが要るかなと思います。

大井淳一郎委員長 伊場委員、山田委員共々、貴重な御意見だと考えております。やり方については少し考えさせていただきたいところがあるんです。

が、何らかの形で事業者と意見交換する機会を設けたいと思います。

吉永美子委員 山口市と岩手市の奨励金や補助金によっての効果を掌握するのは難しいですか。

大井淳一郎委員長 難しくはないと思います。まだ聞いていないだけです。やった上で、思ったより効果がなければ、これを挙げるのも難しいし、もし効果があると分かれば、なお弾みがつくのかなと思っています。吉永委員の言われるとおりで、ここでは効果まで踏み込んでいなかったのもので、調べてみたいと思います。そのほか、よろしいですか。公共ライドシェアはどうでしょうか。これこそ事業者と意見交換するといろいろ言われる可能性もあるところです。それは担い手確保のところの延長で出てくるかもしれません。

伊場勇委員 こちらについても、もし民間事業者がやっておられて困る点もあれば、助かる面もあるということが、いろいろ調べたら出てきて、そういうところは実際に話を聞いてみないと分からないかなと思います。公共ライドシェアというのは、まだ試験段階であったり試行段階であったりしますが、広まっていくと思っているので、関係される企業の方にも聞いてみたいと思います。

大井淳一郎委員長 そうですね、恐らくこの話も出てくるでしょうから、御意見も聞きたいと思います。それでは、新幹線さくら停車の要望です。（発言する者あり）そうですね、前回のものに若干肉づけしたぐらいですけどね。よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）では、次に行きましょう。次世代の育成支援です。提言の背景が書いてあって、中学生市議会のこととも書いてあるので、皆さんも見てください。提言の背景はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、奨学金返還支援ですについてです。

伊場勇委員 奨学金の返還をどこまで対象にするのかというのが、まずは一つあると思います。本市に住んでもらうだけなのか、住んで働いてもらうだけなのか、どこからでもオーケーなのか。例えば、理科大生が本市にいたときは、もう少し上乘せするのか。もちろん制度設計は執行部がいろいろ考えてすべきですけど、これぐらいは差別化するということもある程度は入れ込んだほうが、より具体的な提案になるんじゃないかなと思います。それはもちろん、いろいろもうちょっと——いろいろ市町でやっていますよ。本市の規模だったらこれだろうというのをしっかり精査して決めたい。そうすると、もっと重みが増すんだろうなと思います。

大井淳一郎委員長 伊場委員の言われるとおり、制度設計をするのは行政ですけども、私たち議会で何か提案できればいいと思っております。やり方とすれば、奨学金自体の返還を支援するところで、額は市町によって違います。それから、対象ですね、これは山田委員も言われていたように、看護とか福祉とかといったものに対象を絞るところもありますね。ですから、今後、厚狭地区にできると言われている医療保健学部がどういった人材を想定しているかは分かりませんが、対象を絞るというターゲットを定めるというやり方もあるかもしれません。これは、さらに中身を検討できることがあればしていきたいと思っておりますので、まずは、ここに書いてある本市独自の支援制度を考えていきたいと思っています。次世代育成支援基金はどうでしょうか。

山田伸幸委員 こういったところがそういう原資になっていくんですか。

大井淳一郎委員長 そうですね。ただ、奨学金返還支援については、国も力を入れておりまして、場合によっては特別交付税の対象になるのではないかといいところもあります。それも含めての形か、あるいは含めない別の形かですが、この次世代育成支援基金というのは、創設をうたっております。（「これもちょうと様子見かな」と呼ぶ者あり）中身はまた、

そうですね……（「行動計画を策定する」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）そうですね。行動計画の状況は私もつかめていないです。恐らくないと思いますので、そこも確認します。次世代育成支援計画という次世代をにらんだ計画はもともとあったんですが、たしか子ども・子育て会議の中に入れ込んだんですよね。そういったこともありまして、次世代育成に特化したものは、今のところつくっていないと思います。間違っていたらごめんなさい。方向性とすれば、これで問題ないと思います。

伊場勇委員 ふるさと納税を活用したクラウドファンディングは、とてもおもしろい集め方かなと思うんですよね。本市にゆかりのある方、ふるさとの方、市外、県外、国外でいろいろ活躍されている方でも、こういう形でふるさとに恩返しができるものがあれば、お金が集まってくるんじゃないのかなと思うし、子供時代に——子供というのが大学生も含めてなんだろうと思いますし、次世代というと枠もいろいろありますが、何かしてくれたら、何か恩返ししようと思うのは普通なので、その仕組みを一つの出発点として確立できれば、執行部サイドももっと還元できるものが増えるというように、いろいろ良いようにしか考えられないところがあるので、こういう基金については、もう少し研究しながらですけど、創立することが、今はいろいろな社会状況で貧富の差もありますし、全国大会に行くのもお金がないから大変だという声ばかりが挙がっています。でも、こう言っている子が山陽小野田市にいるということは宝ですし、その子が周りに与える影響もすごく大きいと思うので、ここはしっかり前に進めるべきだと思います。

大井淳一郎委員長 しっかり前に進めていき、議会としても提言していきたいと思っております。はい、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、次に行きましょう。山口東京理科大学との連携です。提言の背景としましては、前回、担当課を呼んで確認した数字をそのまま入れております。ですので、数字的には間違いがないかなと。それと医療保健学部のことをにらんでの厚狭地区の再構築といったことで、提言の背

景は特によろしいかと思います。提言内容です。タイトルが難しいんですが、第2のふるさとづくりの推進ということで、要は理科大生が山陽小野田市を第2のふるさとだと思ってもらって、そのまま地域に住んでもらう。U I J ターンだから、例えば東京の人だったら I ターンにつながればいいかなということで書いたんですが、具体的にここがなかなか提言できていないのが、私も書いていての弱点だと思いました。

山田伸幸委員 この問題は、理科大生に、山陽小野田市内に出てきていただいて、そこでいろいろな人との触れ合いといったことがどれだけできるかに関わってくると思うんですよ。そういったものを抜きにして、そういう思いには絶対ならないはずなので、自分はこの地域にこのように育ててもらったといった実体験が必要ではないかなと思います。

伊場勇委員 実体験ですけど、まずは根本的に、本市にほぼ全員が住むぐらい施策が何か必要かと思いますね。住んでいた、住んでいないでも大分違うと思うんですよ。もちろん宇部市に住んで、山陽小野田市の市民の方と関わっている方も結構いらっしゃると思いますが、まず山陽小野田市に住むことが大前提じゃないかなと。そして、その近所の人、お隣さん、そのお隣さんなどといった関係性が、学生時代の思い出になって、第2のふるさとになっていく。そういったきっかけがまずは何なのかです。奨励金をやっているんですけど。何かありますよね、交付金じゃなくて、補助金じゃなくて。

大井淳一郎委員長 理科大生に対して奨励金を出していたというのは、「住んでいる奨励金」か何か、そういうのがあったかと思います。

伊場勇委員 今は以前より増えていますけど、8割とか9割とかいかない理由もあるわけで、そこに何か策を展開できて、そこが課題であって、そこがクリアできるものを、我々としては、踏み込んでもう1個ぐらい提案してもいいかなと思います。

大井淳一郎委員長　ここはちょっと厚みをつけないといけないなとは私も思っております。（発言する者あり）そうですね、このままでは出せないなとは、もちろん思っております。理科大生と地域の関わりで言えば、私の周りで言えば、以前は祭りを手伝ってくれたり、本山でも竜王山ウォーク手伝ってくれたりしていますよね。そういった地域のイベントに入ってもらおうというのは、これまでもやっているんですけど、それも含めて、地域に愛着を持ってもらう狙いが何か欲しいなと。そのためには、さっきのタクシーのところの話にもあったように、実際に声を聞いてみることで、私もできていないので反省すべきところなんですけど、やっていかないといけないなと思っております。

山田伸幸委員　以前若者会議などで理科大生の代表みたいな人が来て、その人だけがしゃべるというのはあったんですけど、今はそうじゃないと思うんですよね。やっぱりいろいろな人がここに来ていろいろな思いを持っているんですけど、それをなかなか聞き取れないことが一番の問題じゃないかなと思うんですよね。例えば、就職しようにも、「そういう企業はありませんよ」と言われたら、もう僕らはどうしようもない。だけど、まずはそうやって卒業後もおられるまちかどうかということも含めて、理科大生の要求とまちの現状がどうなんかをきちんと捉え直す必要があるんじゃないかなと思います。

吉永美子委員　大学がいつされたアンケートかは分かりませんが、理事長とお話をしていく中で、アンケートで、「山陽小野田市にいたいと言う大学生は結構いるんですよ」と話されたので、そういったアンケートの実態が出ていれば嬉しいです。公になっていないんですか。

大井淳一郎委員長　吉永委員が言われたのは学生へのアンケートで、この前、担当が出してきたのは大学に対するアンケートだったよね。それとは違うってことね。

吉永美子委員 私の認識が違っているかもしれないけど、とにかく理事長が言われたのは、大学生のアンケートでは、結構山陽小野田にいたいよという回答があったと。話をしていたら、やっぱり地域の人が温かくしてくれるということだったようなので、アンケートという部分では、正確ならば調査できればありがたいなと思いました。

大井淳一郎委員長 そうですね、既にあればいいですし、なければ、こちらが何らかのアンケートをする。難しいですけどね、アンケートするって、本当にね。そういうことも考えないといけないなと思いますね。

伊場勇委員 もちろんアンケートも一つの手だし、L A B Vによる施設である理科大の寮のところはにぎわいの創出ということでいろいろな化学変化を起こすべき場所なんで、議会としてもあそこの学生と、実際に公共交通のことを話すことができるかもしれませんし、理科大にも相談して、寮生と一緒に意見交換ができれば、そして、いろいろ出た意見も、もしかなえられそうなものがあれば、議会が後押しすればいいかなと思います。そういった場面も必要ですし、現に今地域貢献ということはもうやっています。ただ、それでも足りないから理科大も言い続けているわけじゃないですか。何かうまいこといかないというのがあって、もちろん地域性があるっていいと思います。竜王地区には、大学があるわけですから。塾も交流センターで子供たちを夏休みに見ているんですよ。そこから波紋がばつと広がればいいと思うので、地域性があるってしかるべきですし、L A B Vによる寮のところが拠点になってもいいわけですから。埴生地区などにはなかなか来ないのは、しょうがないことなんです。波紋が広がらないといけないので、始めの中心をしっかりと制度化し、高度化してやっていくべきだと思います。その辺のことも、1と2について入れられたらいいなと思っています。

笹木慶之委員 実は、昨日も厚狭地域のRMOの組織の関係で動いたんですけ

ど、なぜそうなるかといったら、まちづくりなんですよね。人口減少が起こってきている中で、まちが小さくなると人が少なくなる。これ以上どうしなければいけないのかということが地域のテーマとしても挙がっているわけです。それぞれの意見を言っているんだけど、それらを総称してみると、一番問題なのは、もともとその地域に住んでいた人たちの後継ぎが、同じところに住んでいないという現象があるわけですよ。ところが、そういうところを皆さんが忘れたままに、よそから学生を連れてくるとか、よそから就職されるとか、どうだこうだと言われるんだけど、やっぱり真っ先にしなくてはいけないのは、こう言ったら悪いけど、土地がつながっているまちです。実は土地はつながっているわけです。固定資産税はね。地域もつながっているわけ。行政もつながっているわけ。しかし、そこに住まないという人たちが現実問題として起こっているわけです。そうすると、我々は何を考えないといけないかということとは、次の世代は、少なくとも地元に住んでもらいたいという意思を持たないと動かないんじゃないかと思うわけですよ。我々の時代もそうだったけど、団塊の世代で、いろいろな人たちが、いろいろな地域に行っていろいろなことをした。しかし、その中から、結果的に残ったものは何かといったら、ふるさとを去った人がいっぱいいたわけ。しかし、戻ってきた人ほんの一部の人たちがいるわけ。親はいたんだけど、ふるさとには帰ってこないという人たち、結局そういう現象面が残っているんじゃないかなと思う。だから、ただ単純に新しい制度をして新しい人たちを呼ぶという、もちろんそれもいるけど、そうではなくて、今、足止めをしないとけない人たちがいるんじゃないか。例えば、第一次産業だって同じこと。漁業だって農業だって林業だって同じことで、後継者がいないんですよ。では、どうするかということを真剣に考えてみないと、その策が動かないんじゃないかなと。しかし、取りあえずの手法として、例えば病気の難民を救うとか、あるいはを救うとかいうことはするんだけど、それでは（「だんだん離れよる」と呼ぶ者あり）いやいや、離れていないわけよ。そこを議論しないと、このテーマをクリアできないんじゃないかと思うから、あえて言っているわけ。理科大の話、新幹線の

話、これもいいんだけど、じゃあどうするのかということをテーマとしてつくっていかないと、住みたくなる、住み続けたいというまちを目指した考え方をしないと、この計画はつながらないんじゃないかと思うわけです。それをどこかに反映させておかないと動かんのじゃないかなと思います。昨日も随分、その話を皆さんとしたんだけどね。

大井淳一郎委員長 外から人を入れていく流れも大事ですし、笹木委員が言われるのは流出をいかにして食い止めるかということで、いろいろな御指摘を頂いたと思っております。今、出している提言が、当然全てではなくて、ほんの一部分だと思っております。出せばもう解決するかというと、そんなことは全然ないと思うので、もっと非常に広い話だという笹木委員のお話だと思っております。言われたことは僕らの心の根っこで持っておかないといけなくて、それらを基に今回は項目を絞っています。これで全てだとは思っていません。

笹木慶之委員 だから私が言っているのは、結論的に、なぜそれを言うかというところ、その締めくくりはそこに行くわけですよ。全てがね。だからもちろん、それを目的にやるわけなんだけど、その一面を語ることはいいんだけど、それは忘れたらいけない大きなものを考えていくべきだと。この計画自体は。もちろん一つ一つの現象面をチェックして、ああだこうだというのはいいんだけど、忘れてはいけないものがあるよというところ、やっぱり落としどころを言っておかないと、まちづくりの計画にならないんじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 はい、ありがとうございます。それぞれ委員、これらは一つの現象面だとは思いますが、言われるとおり、これをもってどういったまちの方向性を持っていくのかというのは、それぞれ思いは持っていると思っております。

笹木慶之委員 あえて言うならば、市の総合計画があるじゃないですか。いろ

いろなまちづくり（発言する者あり）いやいや、議会じゃないわけ。あくまで議会では、市民なんですよ、皆さんは。だから、議会という立場で言わなくてはならないものもあるんだけど、市は市長として、執行部としていろいろな政策をつくっているわけ。しかし、それでは届かないものがいっぱい出てくるわけですよ。だから、議会として我々が何がしかをしなくてはいけないということは当然のこととして分かるわけ。だけど、そこで忘れてはいけない部分、もっと大きなものがあるじゃないかということです。だから、今あえて言っているわけ。どういう切り口にするかは、やっぱり問題だと思います。だから、支援する形は形でいいんだけど、やっぱり町並みをつくったり、それからある産業をきちっと守っていく姿勢をつくったり——昨日もほかのところを見ていたら、熊谷市が高温な土地なんですよね。ところが熊谷市は高温な多湿の地域を逆に売り物にして、まちづくりをしています。だけど、極端なことを極端として捉えるんじゃないしに、自分たちのものと捉えていかないと、これって動かないじゃないかなと思うわけです。みんなシティセールスを結構やっているわけですよ。冷静に考えていくべきじゃないかなと思います。難しい問題だと思うけど、やっていかないと動かないと思うね。

大井淳一郎委員長 究極的には、そのように全体を捉えることも大切だと思っております。今回、私たちは項目を絞ってはいるんですけども、笹木委員の言われるいろいろなことも考えないといけないよということは、そのとおりだとは思っております。

伊場勇委員 このことについて——今は(2)に入っていなかったんでしたっけ。

大井淳一郎委員長 (2)に入りましょうか。

伊場勇委員 (2)の厚狭地区まちづくり構想については、策定するべきだと思います。これについても、今から設置されるものなので、大学側に聞いてもなかなか答えられるところはないかもしれませんが、大学がある効

果については意見交換をする中でもいろいろあるかと思いますが、それがまちに対してどういう効果があって、まちがどういう準備をしたらいいのかというところも意見交換しながら、まちづくり構想にはこういったものがあるって、少し例みたいなのも何かあったらいいのかなと思います。だから、それについても、いろいろ意見交換する場を理科大や学生についても話すべきかなと思っています。

大井淳一郎委員長　そうですね、なかなか具体例を挙げるのも難しいところだったんですが、今、どういったものを望んでいるかということを知れば、こういったものも提言に組んでいきたいと思っています。そのほか、まちづくり構想についてはよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）全体を皆さんこれ通して見ていただきました。今後の進め方なんですけれども、今、言われたとおりバス事業者やタクシー事業者との意見交換、理科大生との意見交換を中心にやるべきことがまだ残っていると思っています。9月中に政策提言なり何らかの方向性を出したいなと思っていますけれども、やはりもう少し時間を頂いて、12月定例会の初日、最終日になるかもしれませんが、提言をしていきたいと思っています。ただ、あわせて、2年目の条例制定という方向についても着手していかないといけないと思っています。条例制定というのは、私たちは過去には条例をつくったことあるんですけれども、私たちの代ではまだつくったことがありませんので、それに向けての準備も閉会中にやっていきたいと思っています。そのためには皆様の御協力が不可欠ですので、引き続きよろしくお願いします。

伊場勇委員　今の状況で9月はなかなか難しいので、もう12月の定例会初日にしっかり提言できるような準備が必要かと思います。それに当たって、もちろんこの政策提言特別委員会が責任を持ってやるんですけれども、その内容によっては、政策討論会の開催もひとつ検討する必要があるかなと思っています。始めに、委員長から御提示いただいた9月までのスケジュールなんですけれども、各種団体との意見交換をできていないとこ

ろは、まだ今からしっかり計画立てしなきゃいけない。ただ、12月となると結構時間がタイトですから、計画をしっかりつくって、スケジュールを練り直して、2週間に1回はするようなレベルでやっていかないといけないのかなと思います。プラス、議会アドバイザーの長内先生もいろいろところで政策提案や政策立案されていて、戦略的な項目を組まれていますし、我々が提示しているものについても面白い角度で御意見をいろいろ頂けるのかなと思うので、長内先生にも一度アプローチすると。何をやるか分かりませんが、それを参考にして、12月1日、もちろん条例も入れないといけないので、1回スケジュールの調整を計画したらいいと思います。

大井淳一郎委員長　ありがとうございます。伊場委員の意見を参考に、閉会中進めていきたいと思います。

吉永美子委員　12月議会初日は何日でしたっけ。（発言する者あり）12月2日ですか。だから本当に時間がないところですけど、今言われた理科大生また交通の事業者といった方々と意見交換するためには、するための中身をきちっと決めないといけないじゃないですか。それにも結構、どういうところを呼ぶのか、また日程調整もしなければならぬし、やることがいっぱいありますので、本当に早急にやっていかないと12月2日に提言できなくなります。委員長、その辺のスケジュールをぜひ具体的に決めていただけるとありがたいです。しっかりと私たちの中で決めていかないといけないと思うんですよ。意見交換するために、どのようにして進めていくか。簡単にはいかないと思いますので、その点をよろしくお願いします。

大井淳一郎委員長　ゴールを12月2日に定めた上で、遡ってやるべきこと、工程表をまた練り直して、考えていきたいと思います。そのほか、よろしいですか。それでは、本日の付議事項2点目、その他はよろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、以上をもちまして、政策提案

特別委員会を閉じます。お疲れさまでした。

午後 1 時 5 7 分 散会

令和 6 年（2024 年） 9 月 2 5 日

政策提案特別委員長 大 井 淳一郎